はるか

ゆたかな暮らしの情報紙

令和5年秋号

「ありがとう」を花せるお葬式
東京　千葉　埼玉　神奈川
孝行舎　株式会社 孝行舎
―お見積り無料　ご相談随時受付―
本　　社：東京都足立区中央本町4－17－2
葬儀サロン：東京都足立区中央本町1－19－2
フリーダイヤル 0120-81-5548
TEL 03-3887-9090(代) FAX 03-3887-9091
孝行舎　検索
深夜・早朝でもご遠慮なくお電話下さい
24時間・365日寝台車がお迎えにまいります

○すこやか「食」の旅――カボチャ
○ご存じですか？――「モーツァルト」
○伝統のモノ――曲物
○花ものがたり――ケイトウ
○生活の中の仏教語――脱落
○仏事と葬儀の知識――遺品整理

すこやか「食」の旅

カボチャ

日本には、「カボチャ」を冬至に食べると風邪をひかない、中風にならないという言い伝えがありますが、カボチャに含まれる栄養素を考えると、なるほどと納得させられます。

◆最優良の健康野菜

カボチャは、体内でビタミンAに変化するβ-カロテン（カロチン）を多く含む緑黄色野菜です。粘膜や皮膚の抵抗力を高めるビタミンAには、風邪のほかにも生活習慣病やガンを予防する効果があるといわれ、ほかにも、狭心症や心筋梗塞の原因となるコレステロールを減らす効果もあり、さらには、食物繊維や各種ビタミン（B1・B2・C）も豊富で、他に類を見ない健康野菜だといえます。（※カロテンはカボチャの皮部分に多く含まれているので、できるだけ皮は剥かずに調理するのがおすすめです。）

◆日本カボチャと西洋カボチャ

ところで、日本カボチャと西洋カボチャの違いをご存じでしょうか。日本カボチャとは、日本原産のカボチャのことだと思っていませんか。

カボチャには多くの種類がありますが、日本で主に栽培されてきたのは「日本カボチャ」「西洋カボチャ」「ペポカボチャ」の3種です。

・**日本カボチャ**……メキシコから中央アメリカの熱帯地域で栽培化されたもの。味は淡泊ですが煮崩れしにくく、煮物などの日本料理に最適です。

・**西洋カボチャ**……アンデス山脈の冷涼な高地で栽培化されたもの。甘味が強くホクホクとした食感で、〝栗カボチャ〟の呼び名で親しまれ、栽培しやすいことから、現在、日本でもっとも一般的なカボチャは、この西洋カボチャです。

・**ペポカボチャ**……北アメリカ南部の乾燥地帯で栽培化されたもの。形や色柄もさまざまで、ズッキーニなどもこの種に含まれます。また、ハロウィンに使われるのもこのカボチャです。

◆名前の由来

「カボチャ」の呼称は「カンボジャ・アボボラ（Cambodia abbora＝カンボジアの瓜の意）」に由来するといわれます。16世紀半ば、豊後国（現・大分県）にポルトガル船が漂着した際、積み荷のカンボジャ・アボボラを殿様に献上、この「カンボジャ」が訛って「カボチャ」になったといわれます。因みに、カボチャが日本に伝わったのは、この際の日本カボチャが最初だと考えられているそうです。

また、カボチャは漢字では「南瓜」と書き、「ナンキン」とも読みます。この名前は一説に〝南京（中国の地名）の瓜〟に由来するといわれ、ほかにも〝唐（中国の王朝名）の茄子〟に似ていたということから「トウナス（唐茄子）」などとも呼ばれています。

ご存じですか？ モーツァルト

私たちは、歴史上の人物など一般によく知られている人について「きっとこういう人だったのだ」などと、思い込んでしまっている場合があります。しかし、ときには「こんな意外な面もあったのか」と驚いたり、「私たちとあまり変わらないじゃないか」と、その暮らしぶりに親しみを覚えたりすることもあります。

＊　＊

今回は、作曲家モーツァルトについての話題をご紹介しましょう。

■讃える人びと

モーツァルトを讃（たた）える人びとは、昔も今も全世界にいます。

たとえば、天才物理学者アインシュタインは「モーツァルトの右に出る作曲家はいない」その清らかで美しい音楽は「あたかも天地万物の内部に眠っていた美の一部を、モーツァルトが初めて明らかにしたように感じられる」と最高の賛辞を贈り、「死とはモーツァルトが聴けなくなることだ」とまで語っています。

■「神童」の誕生

モーツァルトは、1756年1月27日、現在のオーストリア北端に位置するザルツブルクで、宮廷音楽家の父レオポルト・モーツァルトと母アンナ・マリア・モーツァルトの7人目の子どもとして生まれ、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトと名づけられます。幼児の死亡率の高かった時代、無事に育ったのは4歳年上の姉と末っ子のモーツァルトだけでした。

モーツァルトといえば「神童」という言葉がすぐに思い浮かびます。事実、幼いモーツァルトの〝神童ぶり〟には目を見張るものがあり、そのことにまず気づいたのは、音楽の教育者でもあった父レオポルトでした。完璧な音感をもっていたモーツァルトは、楽器のごく僅（わず）かな音の狂いも正確に指摘して大人たちを驚かせたといいます。

しかし、モーツァルトが熱中したのは音楽だけではなく、たとえば計算を教えられると、机や椅子、壁や床にまで数字を書き並べるというように、何かに傾倒（けいとう）すると、そのことだけに一心に集中する子どもだったようです。とはいえ、モーツァルトの音楽の才能はやはり別格でした。

■旅人モーツァルト

父親から共に音楽を学んだ姉の証言によれば、モーツァルトは5歳のときにすでに小曲を作曲し、父親は、息子がクラヴィーア（現在のピアノ以前の鍵盤楽器）で弾くその曲を五線譜に書き留めていたといいます。

息子を偉大な音楽家にすべく、その才能を伸ばすことにひたすら打ち込んだ父レオポルトに連れられ、モーツァルトが初の演奏旅行でミュンヘンに出かけたのは、やっと6歳になろうとする頃でした。以来、作曲や演奏の依頼を受けてはヨーロッパ各地の宮廷や教会に出入りし、36歳を目前に亡くなったその短い生涯の多くを、旅の途上で過ごすことになります。

しかし、父親の教え以外、生涯にわたって学校教育を一度も受けたことのなかったモーツァルトにとって、旅は、さまざまなことを学ばせてくれる〝学校〟でもありました。

■モーツァルトの好物

ところで、旅に明け暮れたモーツァルトの食生活はどのようなものであったのでしょうか。いつも家庭料理を味わえる生活とはかけ離れていた分、旅の途中で食べる安価な総菜から、招かれた貴族の館での贅沢（ぜいたく）な料理まで、モーツァルトの食生活はバラエティーに富んでいました。

しかし、夫亡き後、モーツァルトの好物を尋ねられた夫人のコンスタンツェは「魚、とくに鱒（ます）が好きだった」と答えています。ですが「食べ物に関してはまったくうるさくなかった」とも述べています。

未完成も含めると800曲ともいわれる作品を残した天才モーツァルトの晩年は、借金に借金を重ねる暮らしで、葬られた墓がウィーンの共同墓地のどこにあるのか、未だにわかっていません。

伝統のモノ

曲物

「木の国」日本の伝統民具

近年、お弁当の良さが見直されるようになり、さまざまな種類の弁当箱が売られ、「曲物（まげもの）」の弁当箱も人気だといいます。

「曲物」とは

曲物は、檜や杉などの薄い板（へぎ板）を円筒形や楕円形に曲げ、合わせ目を桜や白樺の皮を細く帯状にしたもので縫い合わせて作る木製容器の総称で、「綰物（わげもの）」（綰げるは、曲げる、たわめるの意）とも呼ばれます。

現在、一般に使われている曲物といえば、弁当箱のほかに、和食や中華で使われる蒸籠（蒸し器）などが挙げられます。

さまざまな木製民具

木の国といわれる日本では、曲物のほかにも、次のようなさまざまな木製民具が作られてきました。

- **刳物（くりもの）**……手斧などで木を刳って（えぐって穴を開けること）作る木皿や木鉢、杓子など。
- **挽物（ひきもの）**……木を轆轤で挽いて作る椀や丸盆など。
- **指物（さしもの）**……一方の木に穴を開け、他方の木に設けた突起とさし合わせて作る箱など。
- **結物（ゆいもの）**……短冊形にした側板を円筒形に並べ、竹などの箍で締めた樽や桶など。

このように、日本の豊富な木材を利用して考案された木製民具にはいろいろな種類があります。しかし、日本人の暮らしを遡ってみると、これら木製民具の中でも、用途が極めて広かったのは曲物だったといわれます。

曲物を用いた井戸

奈良県明日香村の飛鳥時代の遺跡からは、曲物の井戸側（井戸の周囲の囲い）が出土し、法隆寺夢殿の北室院地下からも、三段に重ねられた曲物の井戸側が発見されています。曲物の井戸側は、ほかにも青森県五所川原市の十三湊遺跡（鎌倉時代末期から室町時代にかけて営まれた住居群遺跡）など、多くの遺跡で発見されています。

同じ曲物といっても、現在のように弁当箱や蒸籠として用いるのと、井戸で用いられたのとでは、大きさもあまりに違い過ぎると思われるかもしれませんが、それほど曲物は、古来よりさまざまな用途に利用されてきたということでしょう。

また、曲物は井戸の釣瓶（井戸水を汲み上げるのに使う桶）としても使われ、平安時代末期の絵巻物『信貴山縁起絵巻（しぎさんえんぎえまき）』（共同井戸での洗濯の場）などでも、井戸側に置かれた曲物の釣瓶を見ることができます。

仏教儀礼にみる曲物

平安時代の中頃、仏教的作善行為（写経や追善供養など、よい報いを受ける原因となる行い）の一つとして、法華経などの経典を埋納することが広まり、その容器として漆塗りの曲物も使われていたといいます。

ほかにも、布薩（半月ごとに僧が集まり、互いに自己の罪過を懺悔する儀式）において、心身を浄める具として用いられた盥や、重要な仏具である閼伽桶（仏さまにお供えする浄水を汲み入れる桶）にも、曲物が多く使われていました。

★ご存じですか？★

「歪（いびつ）」の由来

曲物の飯櫃（めしびつ）が、円形のひずんだような楕円形だったことから、ゆがんださまを、飯櫃（いいびつ）から転じて「いびつ」というようになったということです。

花ものがたり

「ケイトウ」

熱帯アジアが原産の「ケイトウ」は、奈良時代に中国から渡来したといわれます。和名では「鶏頭」と書き、この名称は、鶏の赤い〝トサカ〟の形に由来し、英名でも「cockscomb」（オンドリのトサカ）と呼ばれています。また、方言としては「トリノエボシ」「マンダラ」などという地方もあるようです。

ところで、一般にはケイトウのトサカ部分を花とみなしているようですが、正確には花ではなく、この部分は、花軸の先端が変形してトサカ状になって色づいたものです。

では、本当の花はどこにあるのかというと、〝トサカ〟の下、扁平になった部分にびっしり付いた小花がそれで、このような形態の花は他にあまり類がないといいます。

万葉の時代には、花穂のしぼり汁で布や紙を染めたといわれ、また、江戸時代には食用にもされ、貝原益軒は「若葉は茹でて醤油にひたして食べる」と記しています。

＊花言葉……「風変わり」「気取り」「お洒落」など。

生活の中の仏教語

脱落

大谷翔平選手の活躍で野球ファンも増えているようですが「贔屓のチームが優勝戦線から脱落して、もうがっかりだ」と肩を落としたり、「この仲間から脱落したくなければ、もっともっと頑張れ！」と叱咤激励されたり、「どうやら、この頁が脱落していますね」と指摘したり……、ここでいう「脱落」は、あまり良い意味ではないようです。一般に「脱落」とは、文字通り「脱け落ちる」ことで、「仲間や集団について行けなくなって、取り残されること」「書籍などで、ある頁や行、語句などが欠けること」などを意味します。

しかし、仏教では「脱落」は、解脱に通じる言葉で、「捨て去る」こと、つまり、自分を苦しめる「我」から脱することを意味します。煩悩から解き放たれ、束縛のない境地に入ることは、俗世間でも多くの人びとが望んでいることかもしれません。

いずれにしても、あまり欲に走らず、ほどほどを旨とすれば、〝脱落の境地〟もかけ離れたものではなくなるのではないでしょうか。

仏事と葬儀の知識

遺品整理

遺品整理は、四十九日の忌明けが過ぎて少し落ち着いた頃に始めましょう。故人が愛用し、思い出のつまった品々を整理するのはつらいことですが、気持ちを前に進めるためにも、段取りをして行いたいものです。

一般的な手順としては、まず遺品を次の3つに分類します。

①形見分けするもの
②保管するもの
③処分するもの

①は、近親者やごく親しく付き合っていた友人などに贈るもので、その方々のリスト作りをします。②は、日記や手帳、公的書類や各種証書などは（一時的であっても）まず分類保管しておきます。③は、故人の生活用品や衣類などで、処分するのに迷うこともあるかもしれませんが、後々のことを考えれば、思い切って処分することも大切です。

また、独り暮らしだった故人の遺品整理については、事情で遺族が行えない場合は専門の業者に依頼することもできます。その場合も可能ならば、事前に（処分の）要・不要の大まかな仕分けはしておくようにしましょう。（※ここでご紹介する内容は、地域やご遺族の状況によって異なる場合もあります）